

函館の中の全道展 地区別座談会（その1）

出席者 橋本三郎 鎌田俳捺子
木村訓丈 高野正志
三箇三郎(司会)

三箇 全道展出品者の数がなぜ函館（道南）に多いのか、と言う事から話しを進めたいと思いますがどうでしょうか。

木村 その事は私の感じでは魅力ある先輩が多かったと言う事ではないでしょうか。

古くから有る地元の美術団体の赤光社と言う土壤から育て、それがたまたま全道展に結実して行った過程が考へられますが、赤光社の会員が皆、全道展の会員であった事も大きな力となって居ると思われます。

私の場合は赤光社に出品して、続いて全道展に出品するのだと言う気持ちに自然になれたのも、そのためと考えて居ります。



高野 赤光社の出品者はそのまま全道展の出品者となって行きますから、全道展に対しても大きい推進力となっている事ですね。

三箇 そうですね、函館の場合、全道展に出品するための抵抗が少いと言う事も出品層の拡大に影響があったと思われます。

橋本 それもあるが全道展自体の功績と言う事も考えてみたいと思うね。全道展の出来た時の疎開作家による中央との交流が大巾に広がりそれが道内の若い作家の中央への進出のきっかけとなった事など……

それは要するに力量の有る優れた作家が、全道展に結集したと言う事が全道展の非常な魅力になって居た事で、その事が次々と新人を送り出すエネルギーであったと考えられるのだが……

鎌田 函館の場合、他の都市と違って全道展の拠点と言って良い位いとまって居りますからね、会員の数も札幌と同じですから人口の比例で行ったら大変なものですね。

高野 道展の指導者が函館に居なかったと言う事もありますが、学生時代から全道展と言うものが一つの魅力的存在でしたし、今後もそうだと思ってますが。



鎌田 だけど以前の全道展の持って居た魅力が少し薄らいで来ている様に思うのですが、この点はどうでしょうか。

三箇 皆が成長した事で感ずる物たりなさもあります。全道展の持つ新鮮な感じを、より高くもりあげて行きたいと言う事は皆も考えていると思います。どう言うものでしょう。

橋本 戦前の函館の絵描きはいわば素人の集りであったのだが今日の様にあらゆる中央の会に進出して多くの会員、会友に育ち、毎年の受賞者数も相当多く

額装

ナガイ額縁店

札幌・北4・西11 TEL 25-2334

なっているのも、一つは全道展が媒介して中央進出をよいにしたのであろう。函館程度の都市でこれだけ多くの作家を持っているのは全国的にも珍しいと思うのだが、自分の住んでいる街ながら函館の美術界はバラエティーのある集りだね。



鎌田 少し話しが変わりますが、全道展の地方展が無くなってから少々地方に対する力の入れ方が弱くなって来たためか、地方在住作家を引きつける魅力が薄れかけて来た感じを受けますが……そんな時、今度の様な地区別座談会など良い企画ではないかと思えます。

橋本 色々と考えられるが、世の中が落ち着いて来て疎開作家が東京に帰ってしまった。その後の消極的始末がわざわざしていると思うんだが。

三箇 来た人は帰るし、育った人も出て行くと言うのではどうもな—若いやつがもっと頑張らないとエアポケットが出来そうだな。



木村 事務当局も仕事が忙しくて大変だと思うのですが、もっと全道的視野に立って各地の会員に働きかけて、全道展の規模をととのえて行かなければならない時期に来ているのかも知れませんね。

鎌田 私も2、3年前から何か、そんな感じを受けて居るのですが、全道展の特色がもっと強まることを願っています。

三箇 このへんで会の運営になにかありませんか。

橋本 会のあり方が札幌中心にならない様に配慮してもらいたい。

高野 たとへば美術記事などもローカル的ではなく、全道的に扱ってもらいたいですね。

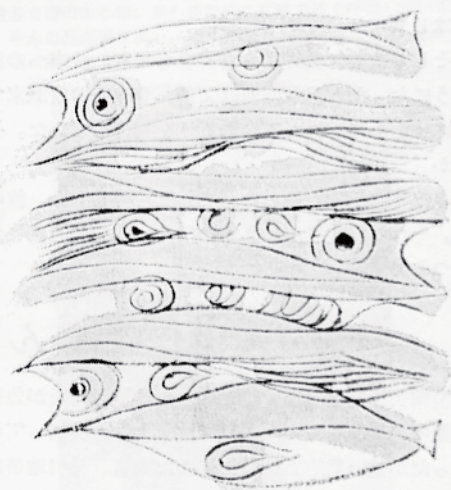
鎌田 全国的な傾向で大都市中心主義で地方がおきざりにされると言う事は色々なことで言われていますが、絵画などの場合、個人的な事ではないが、会全体の発展のためにも地方作家もともに全道に浸透して行く積極性がほしいですね。



木村 まさか函館が敬遠されていると言うわけでもないでしょうが……

三箇 案外そんなわけかも知れませんよ。まあ、あまり刺戟のある言葉の出ないうちに、このへんで終わらしましょう。

(5月1日Kホテルに於て)



J. Hase

長谷川 常雄



1階・喫茶・レストラン 2階・宴会・クラス会

パーラー がくえん

江別5条6丁目

T 江別 2339